

環境福祉学会

News Letter 16

ニュースレター APRIL 2010

目次

公開セミナーのお知らせ	1
第15回事例研究会 ①	2
第15回事例研究会 ②	3
第6回年次大会一般発表の募集について	4
組織及び役員一覧・事務局だより	4

環境福祉学会 事務局 東京都港区南麻布5-16-6 コウセイ広尾3F
創造学園大学 東京本部内
TEL. 03-3447-3321 FAX. 03-3447-3681
http://www.kankyofukushi.jp
E-mail: info@kankyofukushi.jp

公開セミナーのお知らせ

途上国の発展のために日本ができることは

5月30日（日）に環境福祉学会総会に引き続き、午後2時から戸山サンライズで公開セミナーが開催されます。テーマは「途上国の環境福祉の向上のための日本の援助のあり方」です。東南アジア、太平洋諸島、アフリカなどの途上国では、貧困、疾病、環境被害、紛争など沢山の解決困難な問題に悩んでいます。これに対して日本ができることが沢山あります。政府、地方自治体、企業、NGO、個人と色々なレベルでの支援が考えられます。

支援に当たっては環境と福祉に着目することが、不可欠です。途上国の発展には環境の保全を考える一方、そこに生活する人々の生活の向上を考えなければ、地元の理解は得られません。時には両者は対立しますが、両者がともに発展する途は、必ずあります。「持続可能な発展」という概念やフェアトレードもその一つでしょう。

ボルネオでのエコツーリズム振興も考えられます。ボルネオは日本企業が30年前に木材を求めて原始の熱帯雨林を乱開発しました。このためオランウータンを始め多くの貴重な生物が絶滅の危機に瀕しています。熱帯雨林の伐採は、地元住民の生活を向上させませんでした。しかし、いまだ豊かな自然は残されています。日本、オーストラリア、中国からこの自然を求めての観光客が期待されます。これが成功すれば環境も地元住民の生活も向上するでしょう。

公開セミナーでは長くマレーシア、インドネシア、ジャマイカ、ケニアなどで外交、海外援助、企業活動に従事されてきた小畑正比呂、草野孝久、宇田川遼一の各氏をお迎えし、皆さんと一緒に考えたいと思います。お知り合いの方もお誘いし、奮ってご参加ください。
(副会長 炭谷 茂)

プログラム

- 1 基調講演 (14:00~14:40)
「途上国の環境福祉向上のための日本の援助のあり方」
草野 孝久 氏 (JICA 東京国際センター所長)
- 2 シンポジウム (14:50~16:00)
シンポジスト 宇田川 遼一 氏 株式会社 生活の木 常務取締役
小畑 正比呂 氏 前駐ジャマイカ日本大使
草野 孝久 氏 JICA 東京国際センター所長
コーディネーター 炭谷 茂 氏 環境福祉学会副会長

「もっと簡単に紙をリサイクルできるよ
～紙リサイクル現場の環境福祉について～」

京都府再資源化事業協同組合
理事長 中谷 延幸

私たちは年間およそ3000万tの紙製品を生産・消費していますが、これには木造住宅300万軒分の木材が使われています。人間によって失われた森林を取り戻すには、私たち一人一人の工夫と毎日の努力が必要です。

京都府再資源化事業協同組合（KRC）では、古紙のリサイクル量が増える方法を真剣に考えました。「分けるのが面倒」「大きさが違う本、雑誌をひもでくくるのが大変」等々のお母さん方の声もありました。そこで、まず、家庭、職場のごみ箱の横に混合古紙を回収する段ボール箱を設置しました。それを定期的に組合が回収して買い取り、工場の中で選別をします。その後、プレスをしてパルプを再生する製紙メーカーに輸送します。そして、地域の方々とともに、これまで燃やされていた混合古紙を中心に混合古紙リサイクル事業を推進しています。

KRCは五つの広域環境福祉事業を行っています。①混合古紙リサイクル事業、②使用済み飲料容器を回収と加工販売、③使用済み発泡スチロールを回収と加工販売、④使用済みOA機器の回収と分解販売、⑤使用済み資源循環ビジネスの開業支援です。

②使用済み飲料容器のスチールプレスは鉄筋に、アルミプレスはアルミ製品に生まれ変わります。また、ペットボトルプレスは樹脂、フィルムに加工されます。さらに、茶色のびんはビールのびんに、白色のびんはお酒のびんに生まれ変わります。③については組合員のナプラスが発泡スチロールのリサイクルをしています。④使用済みのOA機器には個人情報、企業の情報などの機密情報が入っています。ですから、社員を特定して、工場を閉鎖して、セコムのカメラで監視して作業を行っています。

⑤資源循環ビジネス開業支援では、資源の循環ビジネスの開業支援を定期的に行っています。その内容は、組合資源ビジネス勉強会の開催、資源加工販売工場の見学、専門家や取引業者の紹介、合同営業の提案、環境省のエコアクション21の認証支援などです。

一方、自治体と組合が協力して行っている八つの資源循環事業があります。①京都府ホンジョー



中谷 延幸 氏

の使用済みブラウン管ガラスのリサイクル、②京都府KRCのキャップ2万個ベンチの寄付活動、③京都府KRCの機密古紙溶解事業、④滋賀県サニックスのプラスチック発電燃料リサイクル、⑤東京都江東区宮崎の混合古紙のリサイクル、⑥東京都佐川引越センターの使用済み発泡スチロールのリサイクル、⑦東京都オネストの産業廃棄物の選別リサイクル、⑧東京都日本エコソリューションが地域住民の協力で集めた古紙リサイクルの収益金の寄付によって行われる中央区の森寄付事業等です。

②は、私が住んでいる城陽市で住民の協力でペットボトルのキャップを集めて、それを溶かしてイスを作って、病院など、人がたくさん来るところに寄付するという事業です。

③機密古紙の溶解事業は、機密文書を保管する企業の金庫を、組合員が金庫のまま製紙工場の窯に入れて溶かすものです。④については、〇〇食品や〇〇ラーメンという名前が入った袋が間違っ海外に出て使われることのないように、組合員がサニックスへ直送して、破碎、粉碎、プレスして、ベーリングマシンでラップを巻くというもので、これがプラスチックの発電燃料となります。

障害のある方の施設長に私の工場に来ていただいたときに、私はトイレに車いすが入らないことに気が付き、今度造る工場はその点を配慮しました。これからは、環境福祉の考え方を次の時代の若者にもっと教えて、障害をお持ちの方々と共生した仕事で高収益を上げるビジネスをつくるのが私たちの課題であり、それができる工場を全国に展開することも大切な環境福祉事業だと考えています。

「紙おむつリサイクルについて」

トータルケア・システム株式会社
代表取締役 長 武志

紙おむつのリサイクルの事例は、まだ福岡の方では1カ所しかありません。紙おむつは、パルプの間に入っている高分子吸収体のポリマーがおしっこを吸収するようになっています。ポリマーは自重の1000倍の水分を吸っても、おしっこでは吸収率が20%ぐらい落ちます。それはポリマーが塩分に弱いということで、ポリマーに水を吸わせて塩をかけると全部溶けて、プラスチックとパルプしか残りません。しかも、その二つを水に浮かせれば、軽いプラスチックは上に浮かび、重いパルプは沈むはずだという素人の発想からバケツで実験してみたところ、結構うまくいったのです。それで、大学へ相談に行ったところ、大学の先生も面白いテーマだと乗り気になって、産学官共同研究開発事業がスタートしました。

幸いにも、プラントを建てるときには、経済産業省のエコタウンハード補助金や福岡県の産炭地の雇用補助金などを頂き、事業資金の約3分の1が補助金という形でスタートすることができました。また、私はこういう事業は業界完結型でやるべきだという考えを持っており、事業開始に当たっては、おむつの製造者と販売者、排出者（病院施設等）から出資してもらって、トータルケア・システム株式会社を設立しています。

今後、高齢化がより進むということは、おむつの使用量が増えるということです。パルプは今、北米、北欧のものが主で、日本の場合はほぼ100%が輸入です。環境破壊にもつながりますし、使用後に焼却という形だと、今、自治体が進めているごみの減量化、温室効果ガス排出削減とは逆方向となります。紙おむつを燃やさずに水溶化処理できれば、以上の問題が解消できます。そこで今、一般家庭から出てくる子供用と大人用の紙おむつを、自治体単位にどのような社会システムをつくって回収・処理するかについて、行政と一緒にプロジェクトをつくって、人口約1万5000人の大木町をモデル地区に考えています。

福岡発「紙おむつリサイクルシステム」は、工場の中で処理したものをパルプ、プラスチック、



長 武志 氏

汚泥の三つに分けて全部回収します。回収した再生のパルプは、現在は建築資材としてアスベストの代わりに防火板に使っていますが、ほかに外壁材の試作品もできました。プラスチック関係は今、RPFの固形燃料にして、大分の王子製紙の工場に燃料として使っています。汚泥関係は、食品残さと一緒にコンポストにし、緑農地に還元するシステムを取っております。

最終的な目標は、この再生パルプを再び紙おむつにすることです。大学での実験では、大体パルプも10回転ぐらいは十分持ちます。紙おむつを使って汚れたときは、全部が汚れるのではなく、局所の3分の1、もしくは、大変汚れても半分ぐらいです。水溶化処理して取り出したときも、ほとんど劣化していない状態のパルプが取れますので、おむつの方に戻しても何の損傷もありません。

今後、全国に27カ所あるエコタウン等に、この紙おむつリサイクルシステムを発信したいと考えています。第2に、ごみの減量化という中で、紙おむつをごみの減量化の対象にしようという自治体に広めていくことを考えています。

最後に、工場視察などに来られるときには、ほとんどの方がものすごいにおいがする施設だという先入観を持っています。しかし、工場にはにおいが全くないことに皆さんはびっくりされ、取り出したパルプを見て、またびっくりされます。もし何か機会工場の方へ一回視察に来てください。

お知らせ

第6回年次大会一般発表の募集について

第6回年次大会委員長 藤田 八暉

環境福祉学会第6回年次大会の一般発表を募集します。発表を希望される方は、別紙の申込書に記入いただき、電子メール又はFAXでお申し込み下さい。追って、「予稿集原稿作成要領」を送付します。

- (1)発表者の資格：発表者は原則として本会員です。ただし、今回は非会員による発表も受け付けますが、発表前に入会手続きをしていただくようお願いいたします。
- (2)発表の形式： ①口頭（発表15分、質疑応答5分）、又は②ポスターのいずれかです。
口頭発表はOHP又はパワーポイントの使用をお願いします。
- (3)発表申込締切： 6月30日（水）（必着）
- (4)要旨集原稿締切：8月30日（月）（必着）
- (5)発表申込先：必要事項を記入の上、下記申込先に電子メール又はFAXにてお申し込み下さい。

申込先 〒839-8502 福岡県久留米市御井町1635 久留米大学御井学舎
藤田研究室
E-mail fujita_hachiteru@kurume-u.ac.jp FAX 0942-43-4797
申込締切日 6月30日（水）必着（別紙の申込書をご利用ください）

■ 環境福祉学会組織及び役員一覧

会 長	江草 安彦	社会福祉法人旭川荘名誉理事長／川崎医療福祉大学名誉学長
副 会 長	鴨下 重彦	(財)小児医学研究振興財団理事長／東京大学名誉教授
	炭谷 茂	元環境事務次官／社会福祉法人恩賜財団済生会理事長
	堀越 哲二	堀越学園理事長／創造学園大学学長
	伊藤 達雄	社団法人環境創造研究センター理事長／名古屋産業大学名誉学長
理 事	事：松寿 庶	社会福祉法人全国社会福祉協議会常務理事
	波田 幸夫	環境新聞社代表取締役会長兼社長
	長田 逸平	財団法人日本生産性本部主席調査役
	藤田 八暉	久留米大学経済社会研究所所長
	土井 康晴	社団法人生活福祉研究機構専務理事
	泉谷 直木	アサヒビール株式会社代表取締役社長
	安川 緑	金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域准教授
	児玉 剛則	社団法人環境創造研究センター専務理事
	寺田 清美	東京成徳短期大学教授
	花澤 義和	NPO法人エコリンク21環境国際総合機構理事長
監 事	事：永井 伸一	獨協中学・高等学校校長／獨協医科大学名誉教授
	伊澤 敏彦	NPO法人環境資源開発研究所所長
事 務 局 長	小峰 且也	環境新聞社専務取締役
事 務 局	酒井 剛	環境新聞社事業部部長
	王 豊	創造学園大学東京校所長

事務局 だより

アイスランドの火山噴火や中国・チベットの地震など天変地異が続いている。国内では季節外れの雪が満開の桜に積もる異変が起きるなど、今年は大規模な気候変動による食料、エネルギー問題が深刻化しそうだ▼鳩山新政権は地球温暖化ガス「90年比25%削減」の中期目標を掲げ、世界ナンバーワンの環境・エネルギー大国を目指し、三月には環境省が中期ロードマップをまとめている。構築を目指す低炭素社会は、現在のトレンドの延長線上には存在せず、実現のためにはものづくり、地域づくり、日々の暮らしの仕組み変える対策・施策の必要性を指摘している。グリーンイノベーションによる経済成長はできるのか。その方向性は示せても具体策は見えていない▼本学会の炭谷副会長は、環境と福祉と一緒に考える「環境福祉の発展」という新概念を打ち出し、持続可能な社会や発展を分かりやすく解説している（環境新聞に「環境福祉学講座」連載）。これからの環境問題の解決策は「環境福祉学」が欠かせない時代がきている。